

## 第8回 鎌倉市観光基本計画策定委員会 会議録

日時；平成18年11月27日(月) 14時から14時30分まで

会場；鎌倉市役所 第2委員会室

出席委員；古谷委員長、菅原副委員長（以下、あいうえお順）

大嶋委員、大津委員、城戸委員、小西委員、浜田委員、藤川委員、古谷委員

出席職員；進藤部長、相澤次長、宮田課長、中野課長補佐、鈴木主事

傍聴者；なし

会議の概要；

第2期観光基本計画の答申案について意見をいただいたところ、大きな構成については了解が得られ、細かな内容の部分について検討を行なった。

議事の概要；

### 1. 開会のあいさつ

### 2. 庶務事項

事務局；

本日、國生委員と中根委員が都合により欠席との連絡をいただいている。それでは始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長；

皆さんこんにちは。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。それでは第8回、最終回になりますので審議、議事にご協力をお願いします。あらかじめ連絡があったと思うが、今日は最後に市長あての答申をする。

それでは会議次第に基づいて進めますが、庶務事項、配布資料について事務局から説明をお願いします。

事務局；

こんにちは、よろしくお願いいたします。まず本日の会議の公開の状況は、広報かまくら11月15日号で傍聴者の募集をさせていただいた。事前に1名の方から応募があったが、本日所用のため欠席とのご連絡をいただいたので、本日はいらしていません。

第7回策定委員会の会議録は、ご確認させていただき修正したものをお手元にお配りしています。よろしくお願いいたします。

委員長；

お手元に前回の議事録があると思うが、これで確定させていただくということでお願いします。何かあれば事務局の方に連絡いただければと思います。

### 3. 審議事項

#### (1) 第2期鎌倉市観光基本計画の答申案について

委員長：

それでは審議事項に移りますが、資料の説明を事務局からお願いします。

事務局：

説明に先立ちまして、まず資料の確認をさせていただきます。事前に郵送させていただいたものとして、本日の会議次第、資料1「第2期鎌倉市観光基本計画（答申案）」、それと資料2、資料3は両面印刷になっておりますが、答申文とあとがき文の案になります。あとは第7回の会議録になります。

資料2、3については若干修正がありましたので、差し替え分をお手元に置かせていただいております。

それでは資料1に基づいて修正の部分を説明します。前回の委員会において最終案という形で提案をさせていただき、これについていろいろご意見をいただいた。それを受けて委員長や中根委員にお時間をいただいて検討いただき、修正案を皆様に郵送させていただいた。それについて皆様からいただいたご意見を合わせ、庁内の検討会にも提案をさせていただいた。そこでは、概ね良いのではないかとのご意見をいただいた。修正内容について、資料の順に説明いたします。

資料1の9ページをご覧ください。前回、文章全体のスタイルを能動的な目標文章体に修正したもので説明いたしました。目標1のところは、「～されます」という表現になっていましたので、「～します」に統一しました。

目標2では、1行目の世界遺産への登録を「推進したり、」から「推進し、」に、6行目のトイレのところの「利用協力してくれる飲食店等が増えたり、」を「飲食店等に利用協力をお願いしていくとともに、」に修正しました。また、最終行に「電柱の地中化」とありますが、これについては「電線類の地中化」に訂正させていただきます。

次に、11ページをご覧ください。前回、観光産業を地域の活性化にとって重要であると位置づけるべきではないかのご意見をいただきましたので、方針2において、観光産業に取り組む姿勢を強調した表記とするため、「また、観光を鎌倉市の重要な産業として認識し、その振興に取り組んでいきます。」を追加しました。

続いて、12ページをご覧ください。方針4になりますが、大きな意味での交通政策との連携を表記するため、2行目の「交通基盤」を削除し、最後に「同時に、交通政策と密接に連携し、交通渋滞の緩和や歩行者の安全確保などの検討を進めます。」を追加しました。

方針5では、進捗状況を評価するための材料として、統計データの把握・充実をめざすとして、4行目の最後に「さらに、取り組み状況を評価するために、各種データの把握に努め、その充実を図ります。」を追加しました。

14ページをご覧ください。こちらも前回いただいた、アクションプランの推進・管理を行う組織のイメージを明らかにすべきでは、とのご指摘から、新たに（1）推進組織の構成（案）として、説明文と推進体制のイメージ図を追加しました。具体的には、イメージ図の右上になりますが、まず、推進組織の設立準備委員会を設置し、第2期観光基本計画のスタートをきることとなります。

並行して、各主体の代表で構成する（仮称）鎌倉市観光振興推進本部会議を立ち上げ、地域一丸となった取り組みの意思決定を行っていただきます。

具体的なアクションプランなどの取り組みは、推進本部の下部組織である推進部会を必要数設置し、いわゆるやる気のある人たちが集まって推進していくこととしています。

そして、その進捗状況に対するチェック・評価などは、先ほどの設立準備委員会が移行する形で、(仮称)観光基本計画進行管理委員会を設置し、推進組織とは一歩離れたところで、お願いしたいと考えています。

これらの組織が、それぞれP D C Aの役割を分担することによって、着実に推進していくことを目指したものになっています。

19、20ページについて、前回「(2)アクションプランの主体とスケジュール」としていましたが、「(2)項目別アクションプランの一覧」として、A3の一覧表を説明する表現に整理し、スタイルを統一しました。

21、22ページのA3の一覧表ですが、関連する鎌倉市の取り組みの内容・表現については、庁内の検討会の指摘を受けて若干変更をしておりますが、各課の事業部分なので説明は省略します。また、22ページの目標3の最後に、「(2)進行管理に必要なデータの収集・充実」を追加しました。

23ページ以降については、資料編として、これまで提示した図表類や鎌倉市の一般会計予算額と観光費の予算額の推移や策定委員会、検討会の審議経過などを追加しました。また、前回、目標項目別のアクションプランとして、掲載していた各課の年度ごとの取り組みを、最後にまとめて掲載しました。

修正については以上ですが、このスタイルが、この観光基本計画策定委員会からの「答申」として、市長あてに提出される内容になります。

前回ご議論いただいた目標項目別アクションプランの「主体別の主な取り組み」などは、A3の項目別アクションプランと重複しわかりづらいとのご指摘がありましたので、この「答申案」からは除いています。

この「主体別の主な取り組み」などは、別途作成を予定している「計画書ダイジェスト版」の中で取り入れ、本編の要約、鎌倉における先進事例、市の実施計画事業などとともに、写真やイラストなどを多用して、市民にわかりやすく紹介していこうと考えています。以上です。

委員長：

ありがとうございました。それでは資料1について、変更点についての質問等ありましたらお願いします。

委員：

29ページ下の表は、単位が千円になっているのがおかしい。

委員：

数字が大きいので、単位を変えて見やすく出来ないか。

事務局

単位を千円にして修正します。

委員長：

14ページの推進体制のイメージ図の中で、組織名に付いている(仮)は、組織の設置自体が仮であるように取れるので、(仮称)とすべき。

委員：

14ページについて確認したい。それぞれの組織ごとにP、D、C、Aが入っているが、これは主にそれをやるものということでもいいか。なぜなら、個別プラン推進部会もPDCが出来ないとだめだと思っている。

委員長：

そういう理解でよい。

本来なら、どこの組織がどういう風に情報をキャッチボールするかという形で矢印を書くことより丁寧になる。ただ線を引くだけでなくそれがどういう意味があるのか説明があればよかったのだが、紙面の都合、十分書ききれないところがある。

役割分担については、主な役割ということでご理解いただけると思う。どの組織もPDCAをやっていくが、全体のマスタープランについては、P、D、C、Aと書かれたところがその役割を担っていくということになる。

委員：

15ページについて。「5年間の進捗状況をまとめ」となっているが、5年たないと進捗状況が報告されないように取れる。これは毎年やっていくものなので、整理した方がよい。

委員長：

イメージとしては毎年きちんとチェックをしていき、5年後の22年度をめどに中間報告、取りまとめをしていく。そしてそれ以降のアクションプランに反映させていく、ということ。

その他指摘があれば事務局にお願いします。いただいた意見は修正して答申に載せる。

次に資料2、3について。資料2は、この後実際に市長に答申する時に読み上げて、お渡しするためのもの。資料3は、あとがきの委員会のコメントということで、委員長として代表して書かせていただいた。内容についても指摘いただければと思う。修正点としては、「二つ目には」から始まる「鎌倉地域に」と書いたが、「鎌倉に」と修正する。狭い意味での鎌倉地域と誤解される。

今回のマスタープランの目玉は、観光需要のマネジメントと施策運用のマネジメントというのを入れたことと、事務局のメンバーを見て分かるように、通常、委員会をやる場合はコンサルを入れてやるが、それなしで委員会と事務局とで手作りで作ったというのが前面に出たあとがきになっている。それだけ委員1人1人に責任が出てくると思うが、その点については14、15ページにあるような形で推進体制を進めていきながら、PDCAを進めて行っていただきたいと思う。

委員：

この1年間、今までのやり方にとらわれなくて、非常に良くまとまったなど、私なりに感想として述べさせていただきたいと思う。

事務局：

先ほどの「鎌倉地域」の修正について、その上の行にも同じ表現がありましたので、合わせて修正いたします。

委員長：

最近はどこでも観光マスタープランを作るようになったが、だいたい行政か観光協会が任

を担うようになっているが、その部分で市民を巻き込んで十分に役割分担を果たすというところが鎌倉スタイル、鎌倉モデルになっていると思う。みなさん今後自覚を持って、自負を持って取り組んでいただければと思う。

委員：

委員長には非常にうまくまとめていただいた。事務局にもご苦勞をかけたと思うがお礼を申し上げる。

委員：

「二つ目は」の文章で、「鎌倉において～とは」の後にまた「鎌倉における」が来る。「鎌倉における」を取り、「高い文化水準」から始めてよい。

委員長：

1年間お付き合いいただいて、こういった形で観光マスタープランをまとめ上げることが出来ました。委員の皆様、それから事務局の方には感謝しています。ありがとうございました。これで最終回の委員会を終わりにしたいと思います。

事務局：

終わりに当たりまして、市民経済部長から一言申し上げます。

市民経済部長：

皆様本当に一年間どうもありがとうございました。この計画が今後活きるような形で行政としては取り組んでいきたいと思ひます。その節にはまた皆様のお力をお借りすることがあると思ひますけれどもよろしくお願ひいたします。本当に一年間、お忙しい中ご協力いただきましてありがとうございました。

事務局：

この答申は策定委員会からの答申となり、それを受けて市として行政計画としての位置づけにするための手続きを取る。庁内の検討会も開催し、年内には市長決裁を取り「第2期鎌倉市観光基本計画」としていきたい。

今日修正いただいた部分について、至急修正したものを委員の皆様にお送りします。

<終了>